

福島月舘町農業協同組合（JA福島月舘町）



代表理事組合長	斎藤竹男	役員数	14名
所在地	〒960-09 伊達郡月舘町 大字布川字新屋敷18-1	理事	11名（うち常勤 1名）
	☎0245-72-2211	監事	3名
設立年月日	昭和39年8月1日	職員数	33名（男23名 女10名）
		臨時	2名

I 地区の概況

月舘町は福島市の東南東、伊達郡の西南部にあって、東西9.8km南北8.4km総面積43.63km²である。町の東は三郷森山、無垢路岐山など670mの峯をまじえた阿武隈の高原が広がり、西は御幸山、堀沢山、女神山など450m～600m前後の山々に囲まれている。その間を広瀬川の清流が南北にわたって河谷低地を形造っている。

町域はその3分の2は山地が占め広瀬川をは

さんだ地域を含め平地が3分の1である。

また気候は、東側の浜通り地方と西側の会津地方にはさまれた中通り地方に位置するため、中間的気候という特性を持つがどちらかと言えば太平洋側気候に近い。

本町の人口は、昭和25年には8173人であったが45年には6012人となり平成2年には5365人と長期的な減少傾向が続いている。

Ⅱ 50年のあゆみ

1 地区農業の変遷

当地区の農業は、山間地なるが故に平坦地が少く山間僻地の条件下にあって、古来より昭和初期まではほとんどの農家は養蚕を主とした経営であり、一部葉たばこを栽培していた程度で、水田面積も少く米は町内全消費量の8か月分を満たすだけであった。ほとんどが段々畑の傾斜地が多く、昭和初期に入り養蚕が不振となり急速に葉たばこ栽培が増加する等の経過をたどり戦時下となり、食糧増産体制に移行した。

戦後に至り、ようやく地区内農業経営の変革

をする時代となった。養蚕、たばこ、大小麦に代る選択に迫られ急速にたばこ、果樹(りんご、桃、プラム)、また菌茸の生産また一部ではきゅうりをはじめそさい類の導入が行われる様になった。

30年に入る前は木炭及び鶏卵の集荷販売があるのみであったがあんぼ柿の生産出荷が開始され、次に菌茸生産が軌道に乗り始め、養蚕に代るものとして実績が上り現在では10品目程の生産部会が結成され活躍している。道路網の整備に伴い主要食糧基地としての産地形勢が進められている現況にある。

図表1 地区農業の変遷（農業センサスより）

項目		年次					
		25	35	40	50	60	2
総農家戸数 (戸)		1,019	1,020	988	878	820	745
うち 専業 (戸)		891	448	215	123	115	97
I種兼業 (戸)		53	410	580	320	180	118
II種兼業 (戸)		75	162	193	435	525	530
経営耕地面積 (ha)		829	850	815	688	587	507
うち 田 (ha)		296	305	300	267	240	221
畑 (ha)		332	300	238	112	109	113
樹園地 (ha)		201	245	277	309	239	173
収 穫 面 積	稲 (ha)	281	303	291	248	199	171
	麦類 (ha)	252	224	125	1	0	20
	野菜類 (ha)	69	60	37	27	29	124
	果実類 (ha)	7	44	80	118	106	86
	飼料用作物 (ha)		22		6	4	15
	たばこ (ha)	19	20	20	10	6	2
飼 育 頭 数	乳用牛 (頭)	37	93	162	63	54	52
	肉用牛 (頭)	279	380	258	137	101	791
	豚 (頭)	111	108	202	462	291	353
羽 数	にわとり (千羽)	2	5	7	1	1	
	ブロイラー (千羽)				333	886	821

(注) ブロイラー 50年以降は出荷羽数

2 経営の推移

(1) 農業協同組合の発足と合併

大正12年頃、小手川村保証責任信用購買販売利用組合が設立されたが数年後に経営不振に陥り、昭和19年2月16日には解散をして同年3月20日には月舘町農業会が発足し、1か月遅れて4月11日には小手村農業会が発足している。

事業所はいづれも仮事務所で、月舘町農業会が月舘字町37、半沢栄一郎宅の一部を借りて営業をしていた。小手村農業会は大字糖田字早稲田32、千葉六郎宅の一部を借りていた。

22年には農業協同組合法が制定され、23年には月舘町、小手村、小手村下手渡の農業協同組合がそれぞれ発足した。

月舘町農協は発足後間もない26年度に再建整備組合の指定を受け県上部機関の指導を受けた。当時の農協経営は容易ではなかった。

昭和30年には月舘町と小手村との町村合併が成立し、33年9月には月舘町農協と下手渡農協が合併をした。

さらに、39年になって月舘町農協と小手農協が合併して、現在の一町一農協の姿の月舘町農業協同組合の設立となった。

図表2 主な勘定と事業の推移

(単位：千円、共済：百万円)

項目		年度						
		24	30	39 (合併時)	40	50	60	5
正組合員戸数(戸)		956	1,006	1,030	972	899	847	802
准組合員戸数(戸)		62	50	56	54	241	276	274
資 産	余 裕 金	1,157	1,509	61,533	90,606	544,229	1,761,243	3,294,326
	貸 出 金	736	8,244	59,690	62,545	422,680	710,974	579,741
	その他流動資産	1,287	8,318	37,555	43,358	193,505	263,475	164,167
	固 定 資 産	1,789	4,423	12,622	24,979	51,146	71,103	58,196
	外 部 出 資	96	1,377	2,644	2,827	10,789	40,650	58,104
負 債 及 び 資 本	貯 金	4,753	9,369	111,981	147,570	1,028,145	2,225,546	3,528,098
	借 入 金	1,240	8,700	35,465	29,071	22,101	239,098	150,175
	そ の 他 負 債		3,243	16,294	20,711	136,733	275,007	338,724
	出 資 金	544	4,310	11,160	15,642	34,443	95,199	119,345
	積 立 金	4	5	401		870	6,000	15,350
	剰 余 金	-230	-2,026	-1,260	907	207	6,988	2,741
主 な 事 業 実 績	販 売 取 扱 高	11,946	22,506	81,839	111,167	465,201	705,310	746,461
	うち 米 穀		6,624	25,425	36,178	91,101	89,026	50,437
	青果物		8,369	38,782	67,919	339,549	299,534	552,237
	うちきゅうり				1,296	29,565	79,843	129,596
	畜産物			7,178	5,773	4,986	7,320	14,191
	購 買 取 扱 高	5,404	14,219	61,304	68,596	306,801	398,465	458,439
	うち 生産資材		11,054	48,403	50,376	218,329	281,768	280,397
	生活資材		3,165	12,901	18,220	88,472	116,697	178,042
	長期共済保有高			281	404	3,983	29,872	43,754

(注) 合併時は最新合併時の始期 他は年度末 合併以前の年度は合併参加農協の合計

(2) 農協の基盤づくり — 生産部会の育成

発足当時の農協経営は容易ではなかった。農産物の販売は少なく僅かに木炭鶏卵若干の米麦等であった。養蚕は養蚕組合が独立し、畜産も畜産組合として独立していた。この様な中、青年層が中心となり果樹栽培をはじめ桃、林檎の栽培が行われた。昭和28年頃よりあんぽ柿の生産販売を組合として開始し、数年にして年間取扱い2kg箱詰めで10万箱を出荷するに至り組合の販売品目の第1位となった。この事が農協販売事業の真価を組合員が認めることとなり、以後の販売事業進展の基礎となり最多出荷時には23万ケース迄になった。またその頃には、果樹研究会も発足、青年層の販売意欲が向上し、続いて菌茸部会、胡瓜部会等も誕生し現在の販売体制の基盤づくりの時代となり、現在では10指を数える部会数となった。

(3) 販売事業の振興拡大

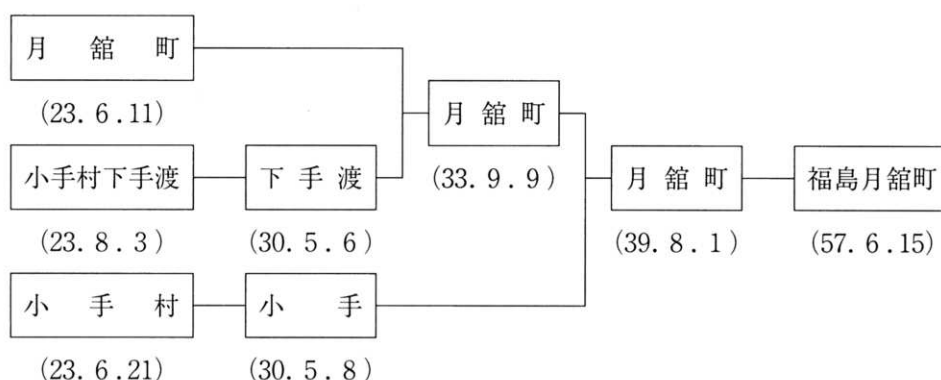
昭和50年度より販売事業では1作目年間1億円以上、1農家1作目100万以上を目標に努力する事を提唱し、現在6品目を達成した。(しいたけ、桃、なめこ、あんぽ柿、きゅうり、わさび)

販売事業振興のため営農指導体制確立のため4名の指導員を配置し、経済連、中央会、普及所との指導連携を図り、毎月営農会議をもち計画実績検討を重ねた。さらにまた、各部会の連絡協調を図るため、各部会連絡協議会を設け総合発展を促した。

販売関係施設としては、30年代後半に前本所裏に選果場を設け自動選果機を導入、共選共販を開始した。43年度には新たに共同選果場を建設選果機の更新を行った。

47年にはフラワーセンターに育苗センターを

図表3 合併等の経緯



図表4 合併参加農協の概要

合併年月日	組合名	組合長名	組合員数	役員数	職員数
33.9.9	月館町	半沢栄一郎	705	15	8
	下手渡	高木常太郎	90	12	2
39.8.1	月館町	高木常太郎	776	20	14
	小手	斎藤辰次	329	13	9

併設し水稻育苗の普及を図った。

(4) 地域に密着した事業推進

昭和50年代に入り理事会に於て専門委員会制をとり（総務、金融、共済、農産、債権対策の各委員会）責任部署の確立を図り中でも販売委員会に於いては、担当生産部会をもち、責任ある指導監督の任にあたった。

45年8月からは他にさきがけて葬祭事業を開始現在に至っている。利用率は毎年95%以上で地区内から非常に喜ばれている。

有線放送は、37年に設置され業務を開始した。45年には自動化と公社との電話が接続され、公社電話の普及に伴い50年に廃止となるまで、地域に於ける唯一の情報伝達機関として愛用され、組合員から総合農協の真価を認識され信頼

度が高まった。

信用事業振興のため50年頃から1職員1部落担当制をとり毎月同一職員が担当部落を巡回し貯金、文書の配達、要望等を聞くことにより組合員との親近感信頼度の昂揚に役立ち、諸事業の発展に非常に効果があった。また貯金の吸収策としては年末年始の地域内の伝統や年中行事に合わせて実施した（ダルマ貯金、七福神貯金等）。

購買事業推進は婦人部、若妻部会、各農事組合と協調し事業の推進を図った。

肥料農薬等に於ては毎年冬期に肥料農薬説明会を部落毎に開催し普及推進に努めた。

共済事業は2人1組となり役職員一体となり一斉推進体制で各担当部落を巡回推進に努力した。

Ⅲ 年 表

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
23年		36年	
6.11	月館町農業協同組合発足	6.27	共済優績全共連表彰（月館）
6.21	小手村農業協同組合発足	39年	
8.3	小手村下手渡農業協同組合発足	8.1	月館町農協小手農協が合併し月館町農業協同組合発足
26年		9.	合併記念組合員大会（於・月小）
.	再建整備の指定を受ける（月館）	40年	
30年		1.	小手支所新築工事起工式（275万円菅野建設）
3.1	月館町と小手村が町村合併し月館町発足	4.	第1回総会 小手支所落成式
5.6	下手渡農業協同組合と名称変更	5.	参事制採用
5.8	小手農業協同組合と名称変更	12.	下手渡出張所改築落成
33年		41年	
9.9	月館町農協と下手渡農協が合併し月館町農業協同組合発足	10.	有線電話公社接続開通
37年		42年	
3.31	月館町農協と小手農協が月館町農事放送農業協同組合連合会を設立し業務開始	12.	農機具センター・米検査場竣工

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
43年		55年	
4.	共撰場用地取得・整地	5.	本所事務所建設特別対策委員会発足
5.	共撰場工事入札（920万円・附帯工事80万円）	10.	真空包装機2台目購入・設置2880千円（県補助）
11.	共撰場落成	11.	米作大冷害取扱高890俵
45年		11.	バックホーン導入3850千円（県補助）
8.	葬祭事業開始	56年	
46年		6.	共撰場改造（共撰機階上へ）
4.	役員定数を20名から14名に変更	56年	
11.	小手給油所・有放自動化竣工	10.	落葉果樹低位生産園再開発事業導入（県補助）
47年		57年	
1.	育苗センター設置	6.	福島月館町農業協同組合と名称変更 転作基盤合理化促進事業 （昭和57・58・59年実施、県補助）
2.	下手渡肥料倉庫建設	58年	
6.	本所購買店舗設置	4.	オンラインスタート（本支所同時）
48年		8.	ダガー導入
8.	支所プロパン貯蔵庫及資材倉庫設置	59年	
49年		8.	全銀内為制度加入・スタート
10.	伊達南部しい茸生産団地の指定・整備	11.	農協合併20周年記念式典
50年		60年	
7.	特用林産物地域振対策事業導入（林野庁補助事業）	4.	共済事業30周年記念大会
12.	有線電話公社接続廃止	7.	本所C Dコーナー開通
51年		10.	集荷場竣工落成（本所）1600万円
5.	電算処理開始（オンライン）	61年	
12.	煙草収納所跡地取得決定	3.	婦人部結成20周年記念式典
52年		8.	第1回朝市開催本所
3.	しい茸販売1億円達成	62年	
6.	選果機更新13,985千円（県補助）	9.	購買事務オンライン移行
6.	全農・全共連への加入	元年	
6.	本所事務所移転（煙草収納所跡）	3.	他金融機関とキャッシュカード業務連携
7.	同上落成移転祝	11.	購買倉庫竣工落成（本所）900万円
9.	桃販売1億円達成	2年	
10.	予冷庫完成	10.	霊山・月館農協合併研究会設立
53年		3年	
1.	系統オンライン加入決定	7.	小手支所C Dコーナー開通
2.	生産部会連絡協議会発足	9.	コイン精米所オープン共撰場
2.	なめこ販売額1億円達成	4年	
11.	年金福祉クラブ発足	4.	食材宅配事業スタート
11.	小手支所給油スタンド竣工	4.	農協の愛称がJ Aとなる（マークも変わる）
54年		6.	伊達7 J A 合併研究会発足
2.	あんぽ柿販売額1億円達成	5年	
4.	若妻部会発足	12.	水稻戦後最悪の冷害 本県作況指数62 県北作況指数64となる 取扱高120俵
6.	神葬祭用祭壇貸付開始		
7.	本所・支所警備保障に移行		
11.	第1回農協まつり開催（合併15周年記念事業として）		

IV 資 料

(平成5年度末現在)

1 組合員

()は戸数

正組合員		准組合員		合 計	
個 人	法人	個 人	団体	個 人	法・団
803		316	1	1,119	1
(802)		(274)		(1,076)	

2 役員及び参事

代表理事組合長	斎藤竹男	理事	近野誠一
理事	半沢篤司	理事	千葉求富
理事	菅野昭徳	理事	関根信富
理事	佐藤昭二	代表監事	
理事	斎藤勇治		千葉庸雄
理事	加藤彦一	監事	堀江良雄
理事	野崎典男	監事	斎藤芳郎
理事	菅野房美	参事	千葉吉春

3 職 員

男	女	計	うち営農 指導員	うち生活 指導員
23	10	33	3	1

4 協力組織

名 称	代 表 者	会員数
婦人部	千葉道子	734
フレッシュミセス	斎藤とみ子	20
年金福祉クラブ	伊藤泰一郎	461
共済友の会	二階堂喜勝	53
役員OB会	高橋伝助	46
職員OB会	斎藤邦夫	16

5 生産部会

名 称	代 表 者	会員数
果樹部会	高橋忠吉	195
あんぱ部会	千葉紀一郎	110
しいたけ部会	加藤利明	83
なめこ部会	阿部忠義	25
きゅうり部会	斎藤清	65
水稻部会	伊東芳男	250
ニラ部会	池田正三	21
ワサビ部会	斎藤武彦	220
畜産部会	斎藤善信	15

6 主な施設

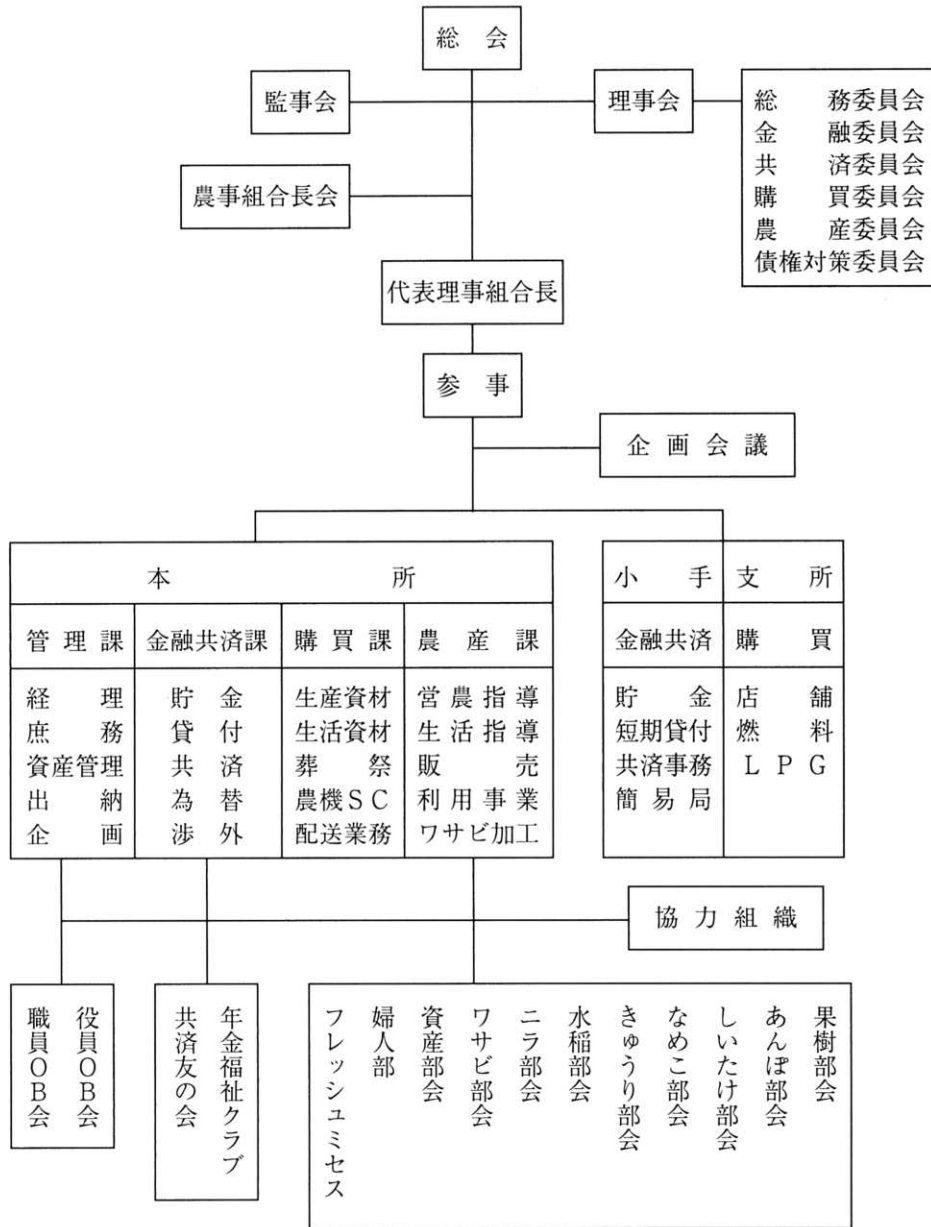
名 称	所 在 地
本所	大字布川字新屋敷18-1
農機具修理センター	〃 〃 〃
購買品倉庫	〃 〃 〃
園芸生産物予冷庫	〃 〃 〃
集出荷施設	〃 〃 〃
選果場兼資材倉庫	大字御代田字上関20
政府米保管倉庫	〃 字関ノ下41-3
育苗・フラワーセンター	〃 字北37-1
支所事務所店舗	大字糠田字後田55-1
購買品倉庫	〃 〃 〃
〃	〃字北ヶ作1
石油スタンド	〃字後田15-4
〃 事務所	〃 〃 〃
LPG倉庫	〃 〃 〃
葉ワサビ加工施設	大字布川字新屋敷18-1
購買品倉庫	〃 〃 〃
花輪倉庫	〃 〃 〃

7 歴代組合長・参事

組 合 長			
39~40	高木常太郎	46~49	田代 英一
40~46	千葉 良雄	49~	斎藤 竹男

参 事			
40~46	斎藤 邦夫	58~62	太田 茂
47~54	佐藤 武陽	62~3	千葉 辰与
54~58	千葉喜三郎	3~	千葉 吉春

8 経営管理機構



9 合併前の歴代組合長

月館町農協

23～26	熊坂六郎兵衛	26～27	千葉栄三郎
26～26	千葉 良雄	27～33	半沢栄一郎

月館町農協

33～39	半沢栄一郎	39～39	高木常太郎
-------	-------	-------	-------

下手渡農協

23～30	長根 正一	30～33	渡辺蒸七郎
-------	-------	-------	-------

小手農協

23～25	千葉 長吉	39～39	斎藤 辰次
25～39	高橋 安		